第 137 号
2026 年 01 月 05 日 発行
発行責任　工藤 忠男
銚子ジオパーク市民の会
URL: https://choshigeopark.com

２０２６年の銚子ジオパーク市民の会について

会長 工藤 忠男

明けましておめでとうございます。

銚子ジオパークは認定後、皆さまの努力により、充実した活動を続けて参りました。

この間、市民の会も大きく変わってきました。

当初、一般市民の皆様には「ジオパーク」が何なのか分からない様子でしたが、最近はジオパークというだけで話が通じるようになりました。これも、推進室・推進協議会の構成団体の皆様はもとより、市民の会の皆様の日頃の活動の賜かと思います。

ナルク銚子さんとの毎月２回の海岸清掃は銚子ジオパーク認定前から現在まで続けております。市民の皆様から感謝の言葉を頂いております。これからも続けていきたいと思います。

また、銚子ジオパークの活動に参加してくる市民の方も増えてきています。

新しくジオガイド希望の人達も認定ガイドに混じりガイド活動を始めました。ベテランガイドから沢山の事を受け取っていると思います。

銚子のジオガイドは増えてきていますが、学習支援は一度に沢山のガイドを必要とします。ガイドが足りない時があります。ガイドをできる人達が、もっと必要と思います。

銚子ジオパークのガイドの人達は「何をどう伝えたら良いか」という事を常に考えています。児童生徒を含め観光客のお客さんのガイドに対する評価もよろしいです。皆さまと力を合わせて銚子ジオパークを盛り上げていけたらと思います。

２０２６年度の銚子ジオパークでは全国大会のような大きな行事はありませんが、ガイド研修など、力をつける時と思います。市民の会も推進協議会の一員として銚子ジオパーク発展のため、皆さんと一緒に頑張っていきましょう。

県立銚子高校 防災ジオツアー

房州　文子

秋晴れの10月29日、毎年恒例の県銚１年生「防災ジオツアー」のガイドを行いました。

今年度の１年生は３クラス、です。一クラスを２班に分け、６班で４コースです。

① 街中コース　２組Ｂ班

江戸時代、利根川の水運で大発展を遂げた銚子。発展の痕跡を辿るとともに、小河川や地盤に関する自然災害リスクにも視野を広げ、現在の銚子を理解し、将来への展望を考えました。

② 犬吠埼・君ケ浜コース　２組Ａ班・３組Ｂ班

初日の出や灯台で有名な犬吠埼周辺には銚子を襲った超巨大津波の痕跡があります。犬吠埼→君ケ浜→小畑池をめぐりながら、古文書に見る延宝津波地震を検証し、現在の防災とのつながりを学びました。

③ 外川コース　３組Ａ班・１組Ａ班

江戸時代の初めに、紀州の崎山治郎衛門が銚子に来て、鰯漁を開始、干鰯を製造し、利根川水運を利用して江戸で綿花肥料として販売しました。そのため治郎衛門は外川に漁港と漁民の生活拠点である街並みを建設しました。地形を巧みに利用した外川の町並みを見学しながら、外川の災害のリスクについて考えました。

④ 屏風ケ浦コース　１組Ｂ班

銚子の大部分を占める台地は隆起により形成され、そこが浸食され、様々な地形が作られています。そんな台地の端で、海によって浸食されてできた屏風ケ浦の崖や縄文海進最盛期（約 7000 年前）以降にできた低地を巡り、土地形成の過程と災害リスクを考えました。

以上が今回のジオツアーの目的です。各班にガイド２名。市民の会11名と専門員２名の13名で対応しました。

私は今回、外川コースを担当しました。私たちガイドも、地元銚子の災害の歴史やこれからの防災について、改めて学び直す良いきっかけになりました。

東総地区クリーンセンター見学記

石嶋　博行

十一月十九日（水）、学習委員の企画で、会員・家族13名が参加して、野尻町にある３市で構成し、2021 年から運営されている最新鋭のごみ処理施設を、案内担当者の詳しい説明で見学できた。

最初に研修室で、一般廃棄物、資源ごみ、有害ごみ、環境対策について学んだ。

高効率ごみ発電施設では、普通ごみ（赤色袋入）を1700度以上の高温で溶かして、溶融物にする。発生する高温ガスを回収して蒸気をつくり発電する。ごみ１トンは、電力50kw、スラグ 90kg、メタル

最新鋭ゴミ処理施設全景

☆裏面に続く